

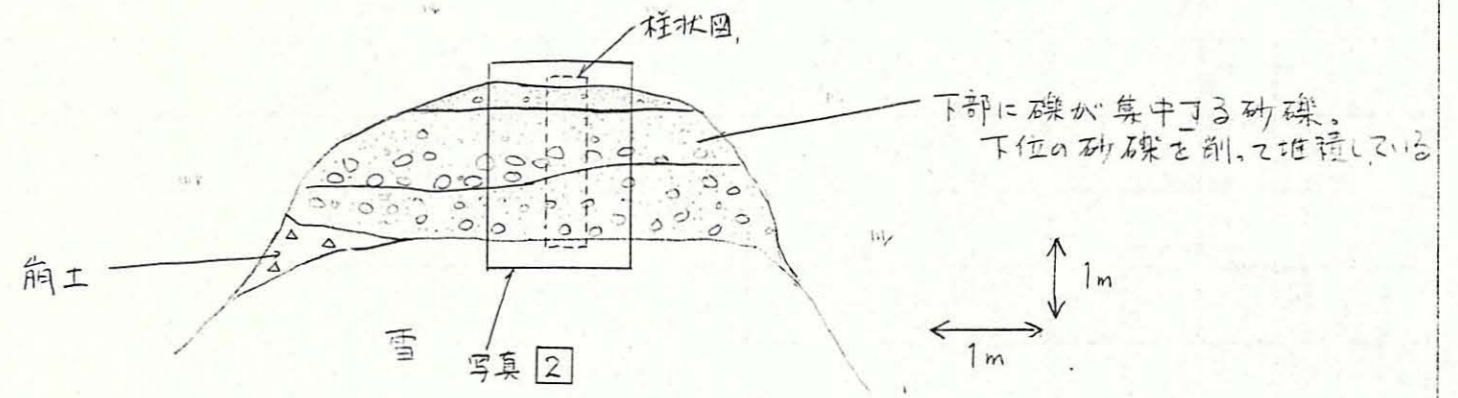


写真①

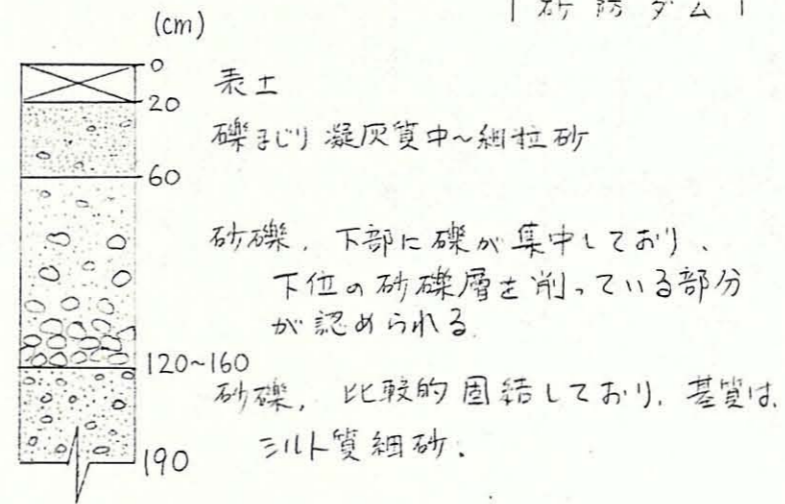


写真②

写真① 全景



砂防ダム



扇状地堆積物

- ・ 現地は砂防ダム軸左岸側である
- ・ 地形及び堆積構造を乱すような異常は認められない



写真 ①

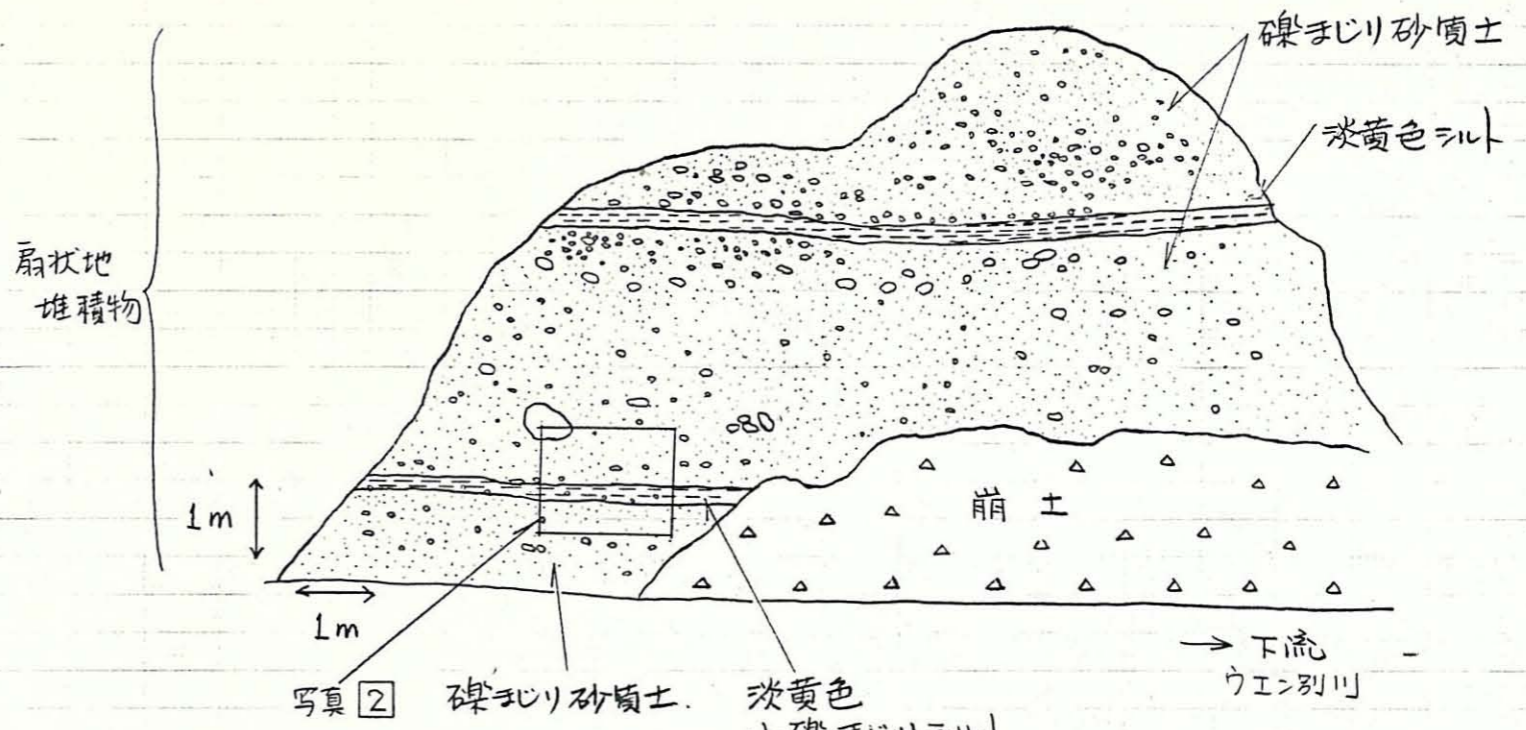


写真 ② 礫まじり砂質土、淡黄色小礫まじりシルト

写真 ① 全景



写真 ②

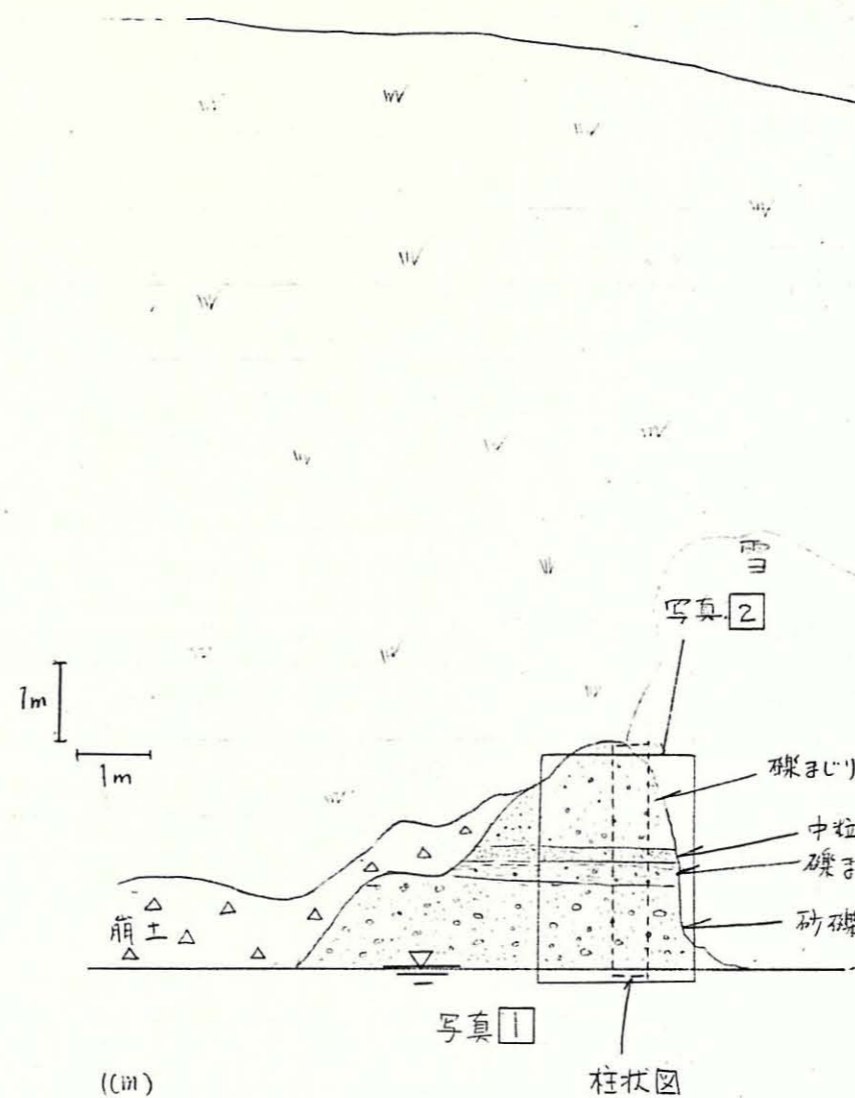
- 地質は扇状地堆積物で、礫まじり砂質土主体でシルトの薄層を挟む。
- シルトの薄層は露頭内で滑らかに連続している。
- 礫の並びは整然としており、特に畝状は認められない。



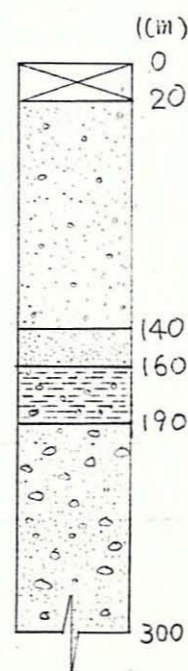
写真 1



写真 2



扇状地堆積物



表土  
 礫混り細砂  
 灰褐色細砂~シルトに 5cm以下の  
 礫を含む。  
 中粒~細粒砂  
 礫混りシルト。  
 砂礫  
 直径10~3cm以下の安山岩の垂円礫と  
 シルト質細砂からなる

扇状地堆積物

- 扇状地性の砂礫層で、間に、礫の少ない部分を挟在する。
- 地形及び堆積構造を乱すような異常はみられない。

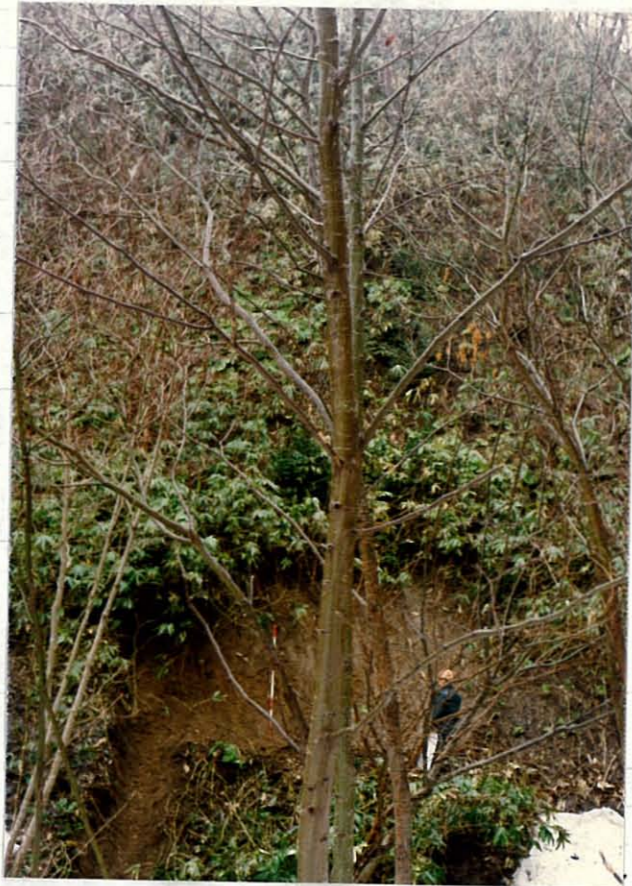
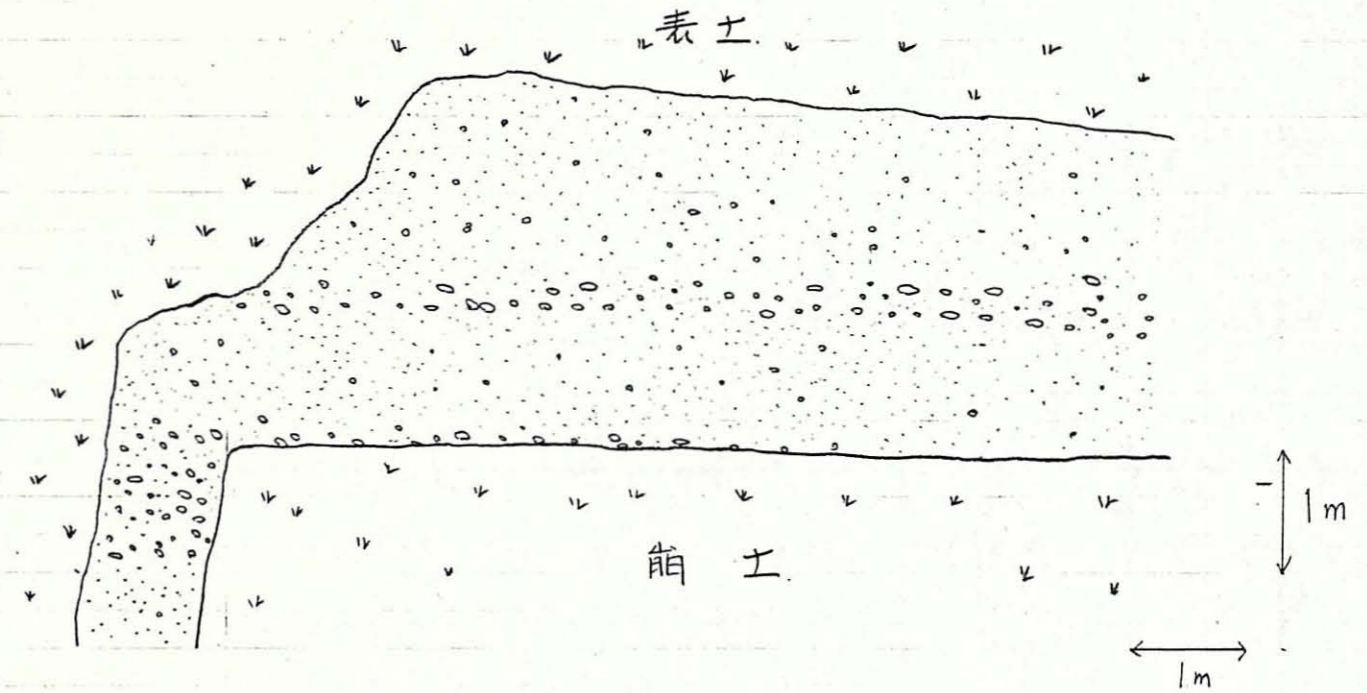


写真 ①



- 地質は、扇状地堆積物の礫まじり砂質土である。
- この露頭 の対岸には、基盤岩（黒松内川の凝灰角礫岩）が露出している。
- 扇状地堆積物はほぼ一様で、シルト等の薄片は挟まない。
- 礫の並びに、特に豊たは見られない。



写真 ②



写真 ①

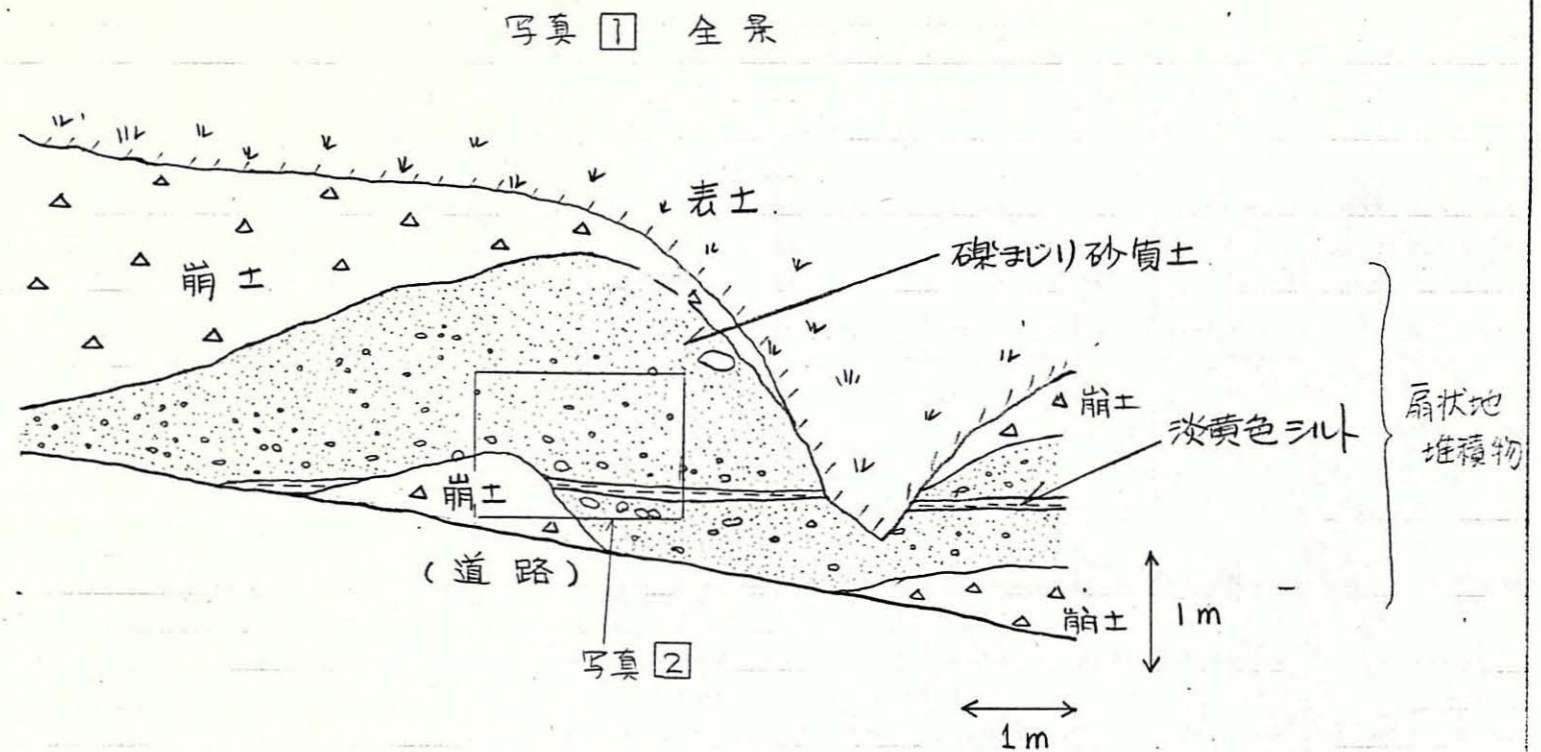
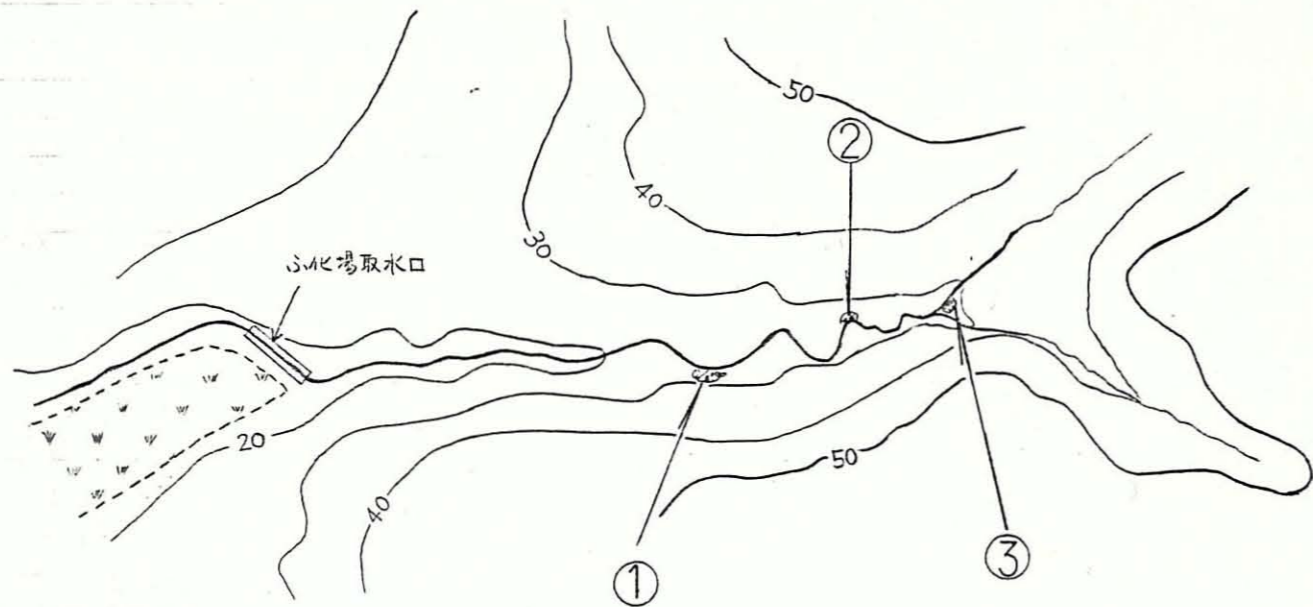


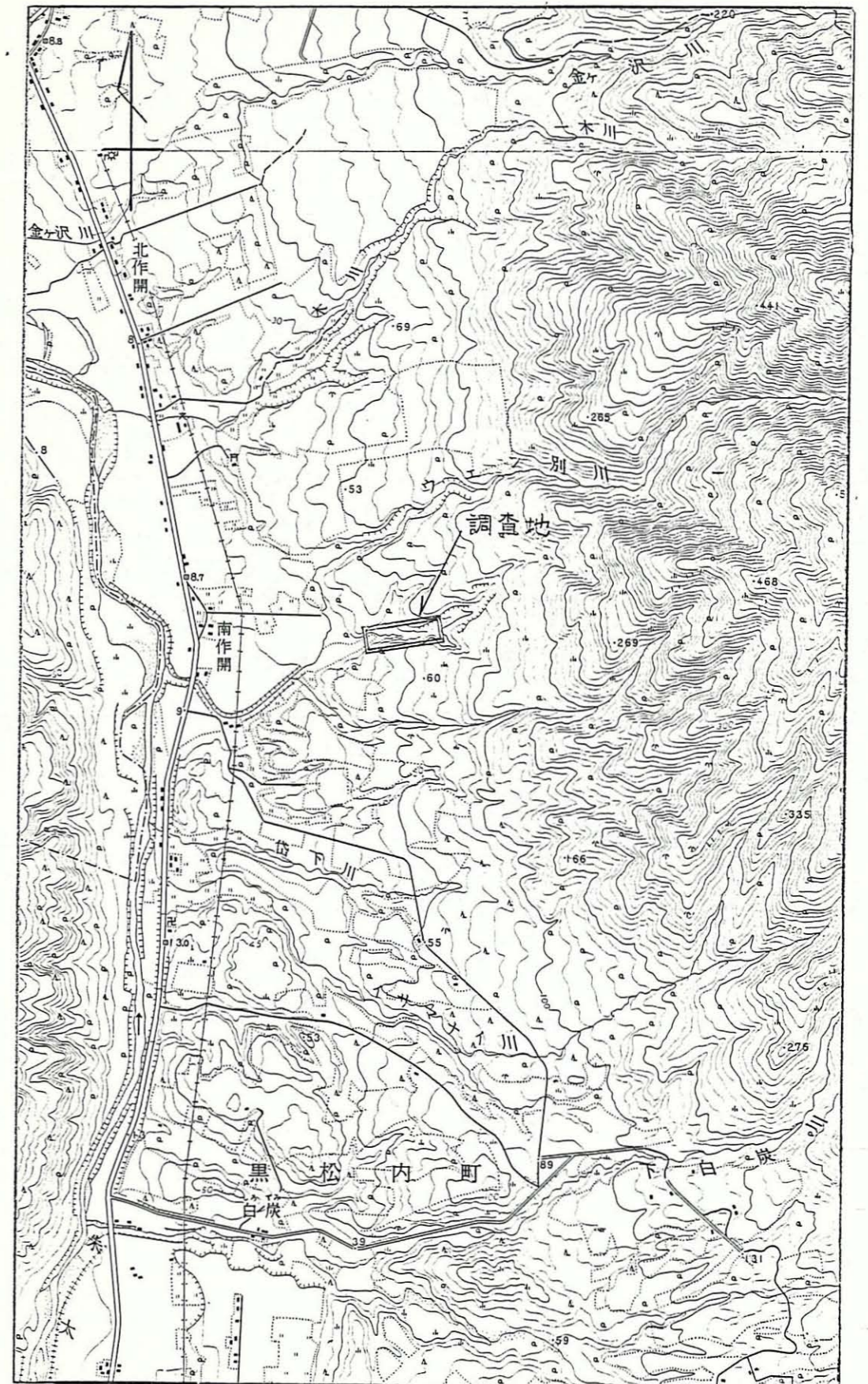
写真 ②

- 地質は扇状地堆積物の礫まじり砂質土である。
- シルトの厚さは連続がよく、堆積構造を乱すような異常は認められない。
- 礫の並び、基質部にも特に異常は認められない。
- 本露頭の上部は平坦な扇状地面で牧草地になっているが特に異常は認められない。

真北

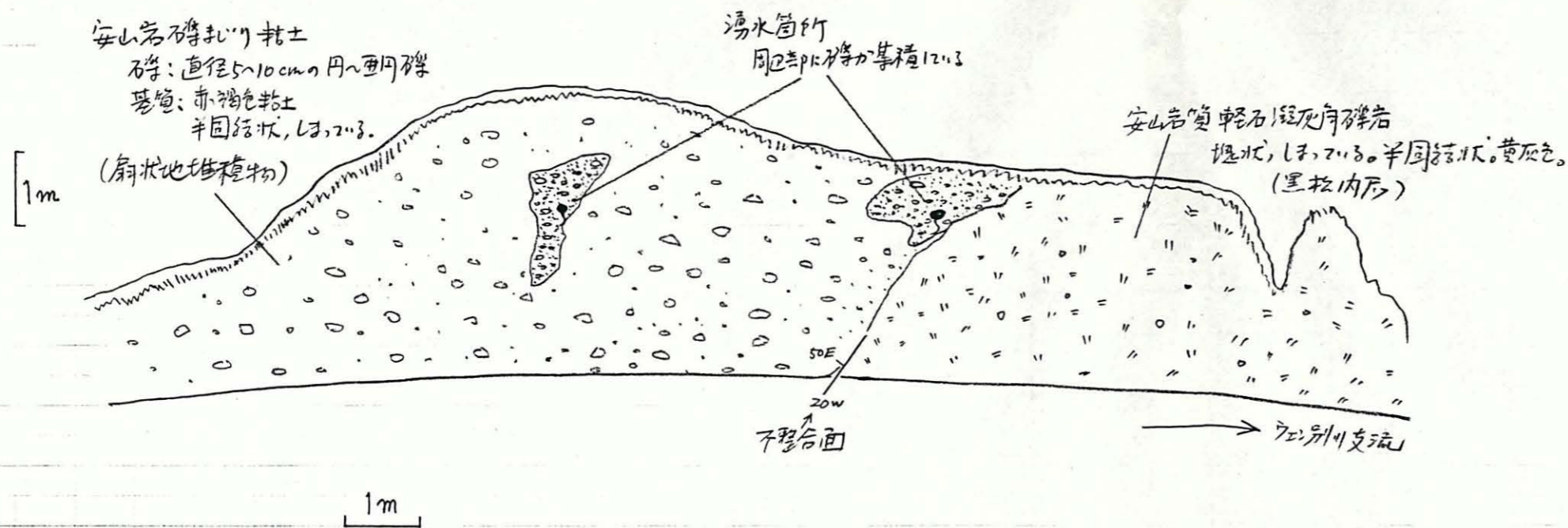


0 100 200 (m)



S = 1:25,000

0 1 (km)

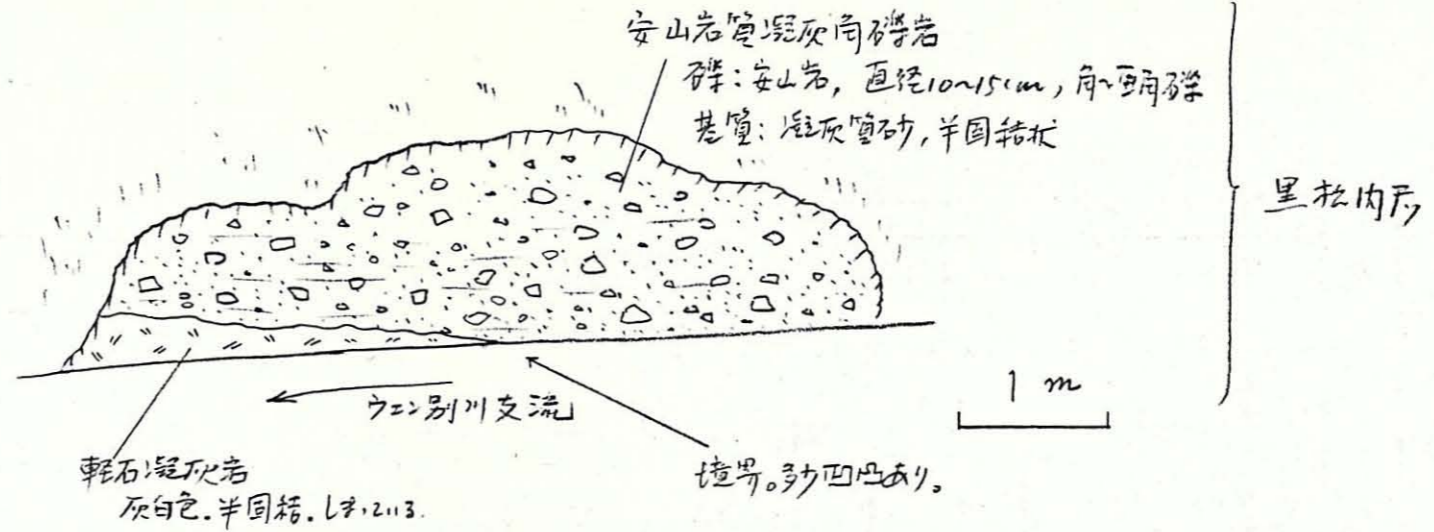


記事:

○向って右側は、安山岩礫を混じる軽石凝灰角礫岩(黒松内尾)。左側は、礫入り粘土(扇状地堆積物)である。両者は、比較的滑らかな不整合面とでもって接している。礫入り粘土中には、2箇所から湧水がみられ、その周囲には、礫が集積している。本露頭において、断面は認められない。



小田 25

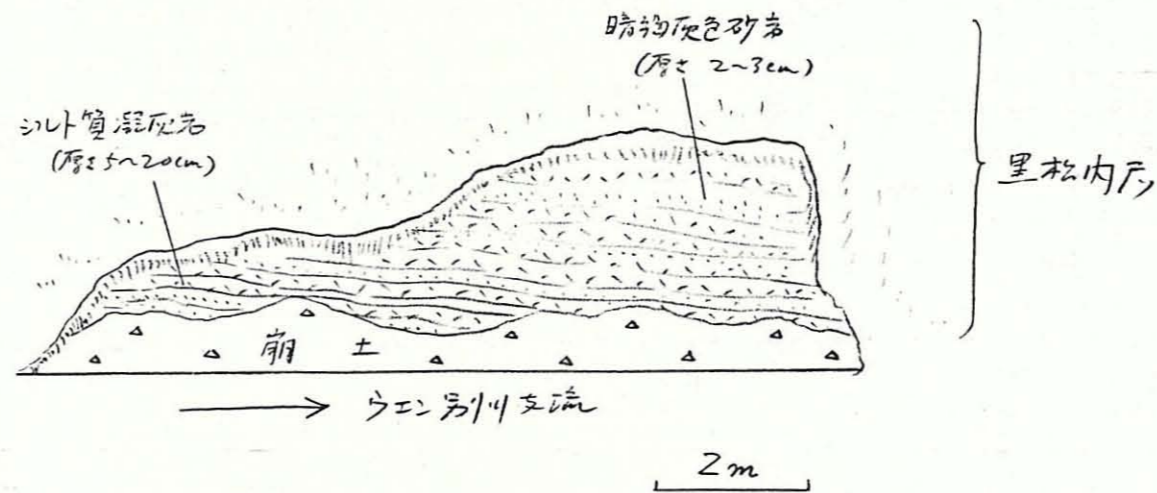


記事

○黒松内層の軽石凝灰岩と安山岩質凝灰岩の露頭がある。  
断面および破砕を蒙り、微候は認められない。

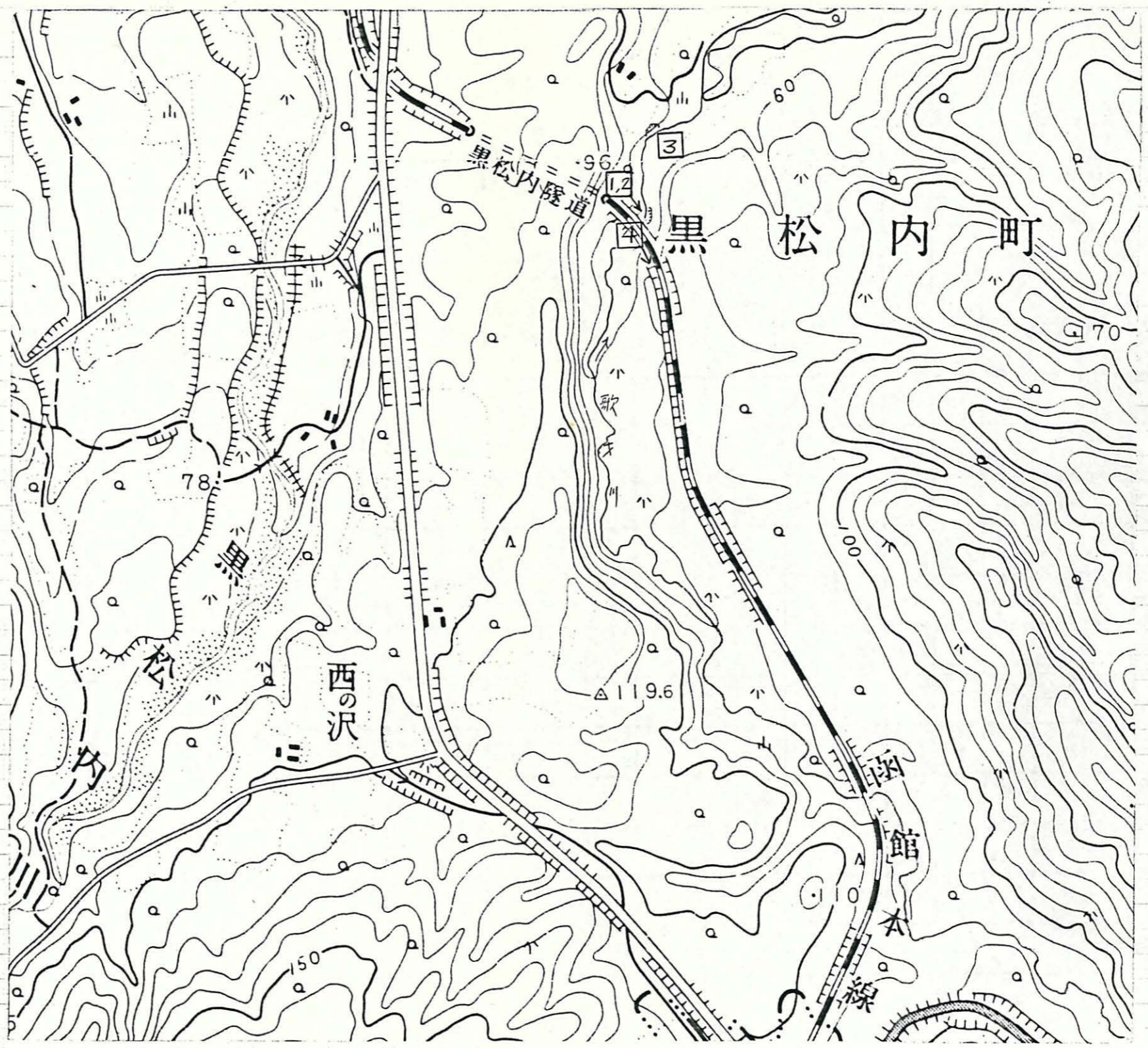


小田 27



記事:

○黒松内層のシルト質凝灰岩(厚さ5~20cm)と砂岩(厚さ2~3cm)の互層で、  
ここには、断面および破砕を被った微候は認められない。



凡例  
 □ 写真撮影位置



小① 29~32

写真一 ㊦

黒松内隧道 長万部方坑口付近から、歌文川右岸部を望む。  
暗青灰色の細砂岩、此岩質が、かつて黒松内川、加連波谷に  
露出し、上流部へ150程度の緩斜地を成している。  
断面の破砕帯は認められない。



小① 32~36

写真一 ㊧

上掲写真の近影



小②-6

写真-③ 前頁写真-1 の左端の露岩の近影。  
上流側へ150m程進むと傾斜のある黒松内P.の砂岩、  
この岩が整然と層を12113。断面が粗い。  
破砕帯は認められず。

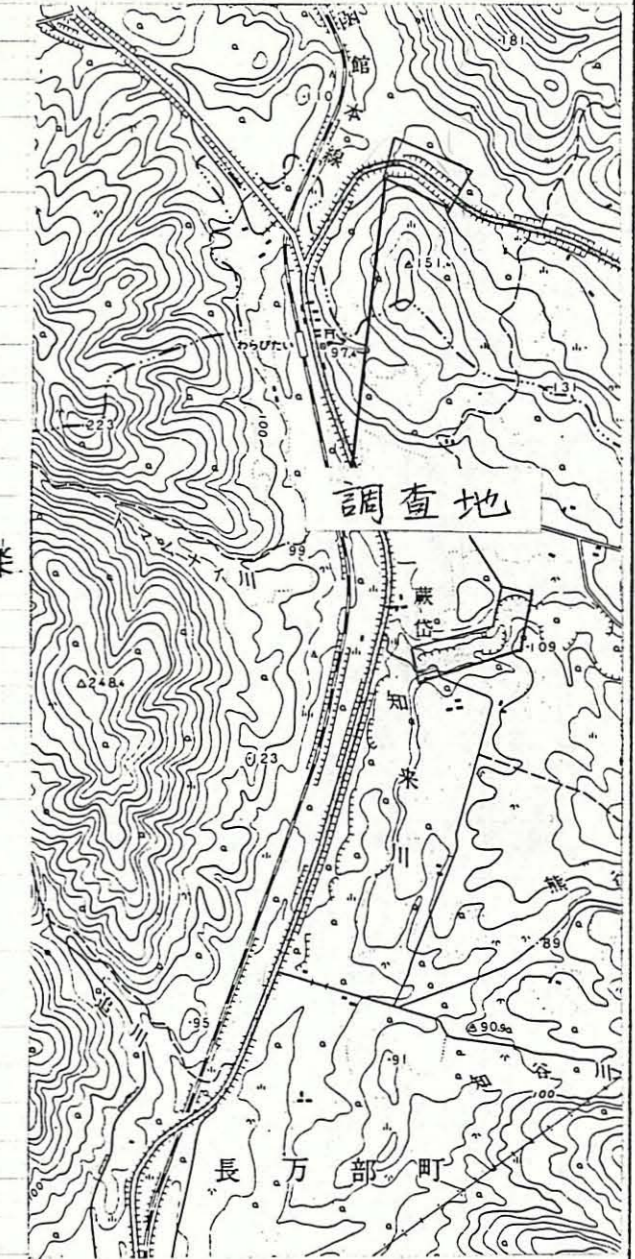
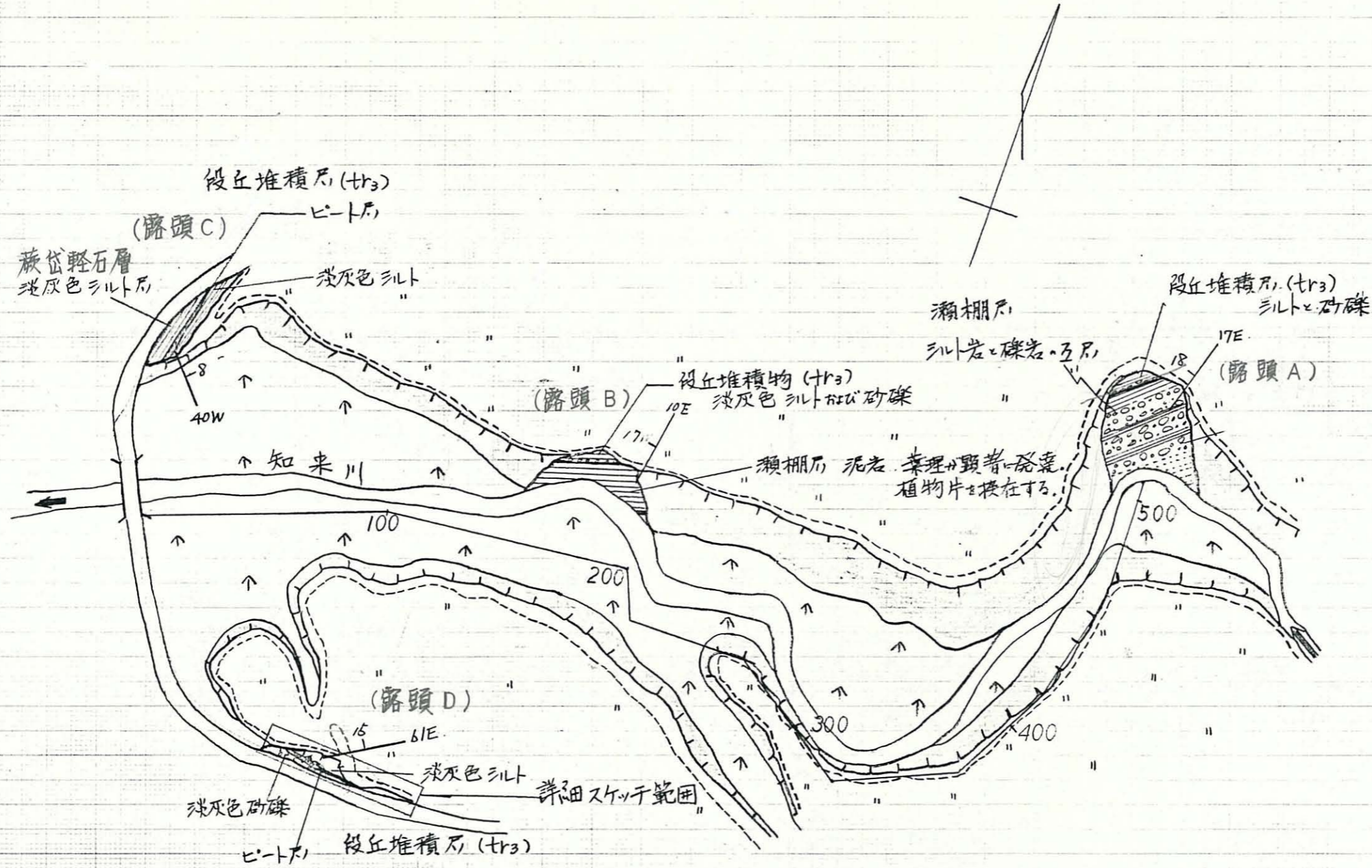


小② 11~13



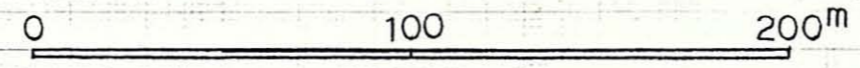
写真-④ 黒松内隧道南側の橋梁から、水鏡本線長万部方面を望む。  
中位粘土堆積物 (tr3) の造り平坦面が分布 12113。

# リニアメント周辺の地質状況



位置図 1 25000

1 : 2000





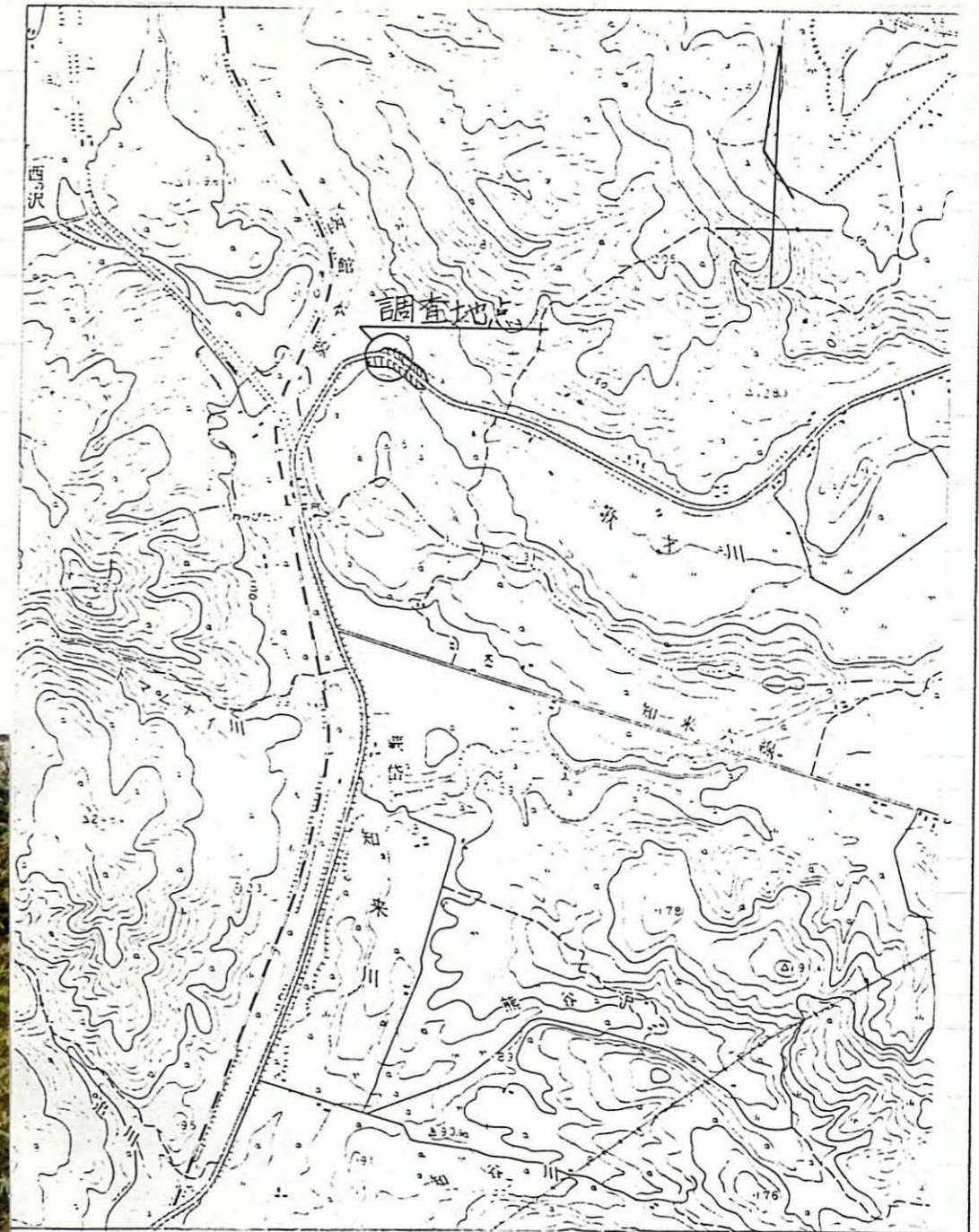
調査地遠景。国道5号線の切通しを面方から東方を望む。



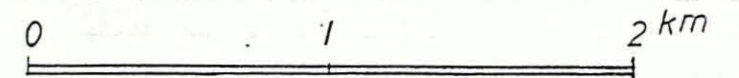
北側法面状況。植生で保護されている。



南側法面状況。北側法面と同様に植生で保護されている。



1 : 25,000



調査地(国道5号線の切通し法面)は、植生による保護が廃工されており、地質観察は困難な状況となっている。



段丘堆積物 (tr.)

瀨棚層

シルト岩と礫岩の互層



瀨棚層のシルト岩と礫岩の互層。走向・傾斜は  $N17^{\circ}E \cdot 8^{\circ}NW$  を示している。露頭内および付近には、断層や堆積構造の顕著な異常は認められない。

知来川右岸の瀨棚層とこれを覆う段丘堆積物。瀨棚層は、シルト岩と礫岩の互層からなり、下流側へ緩やかに傾斜する。

左の写真の近影。シルト岩と礫岩の互層。

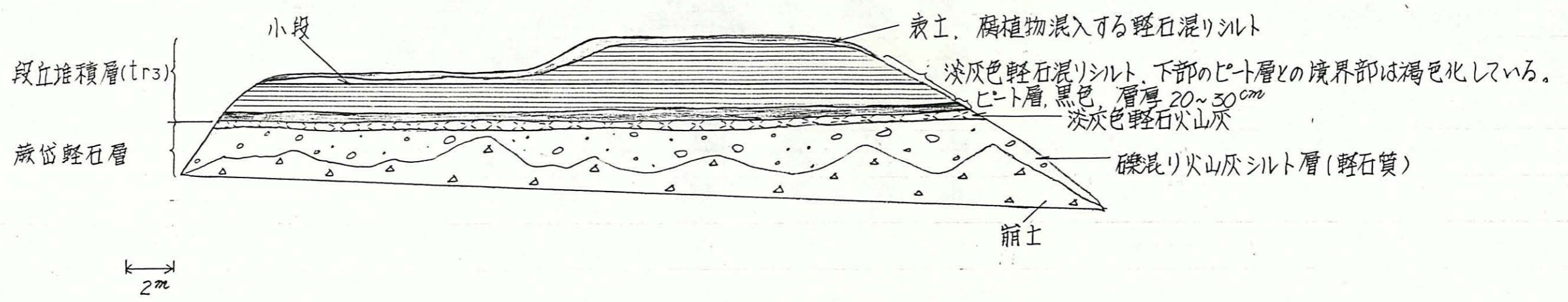


知来川右岸の瀨棚層の露頭

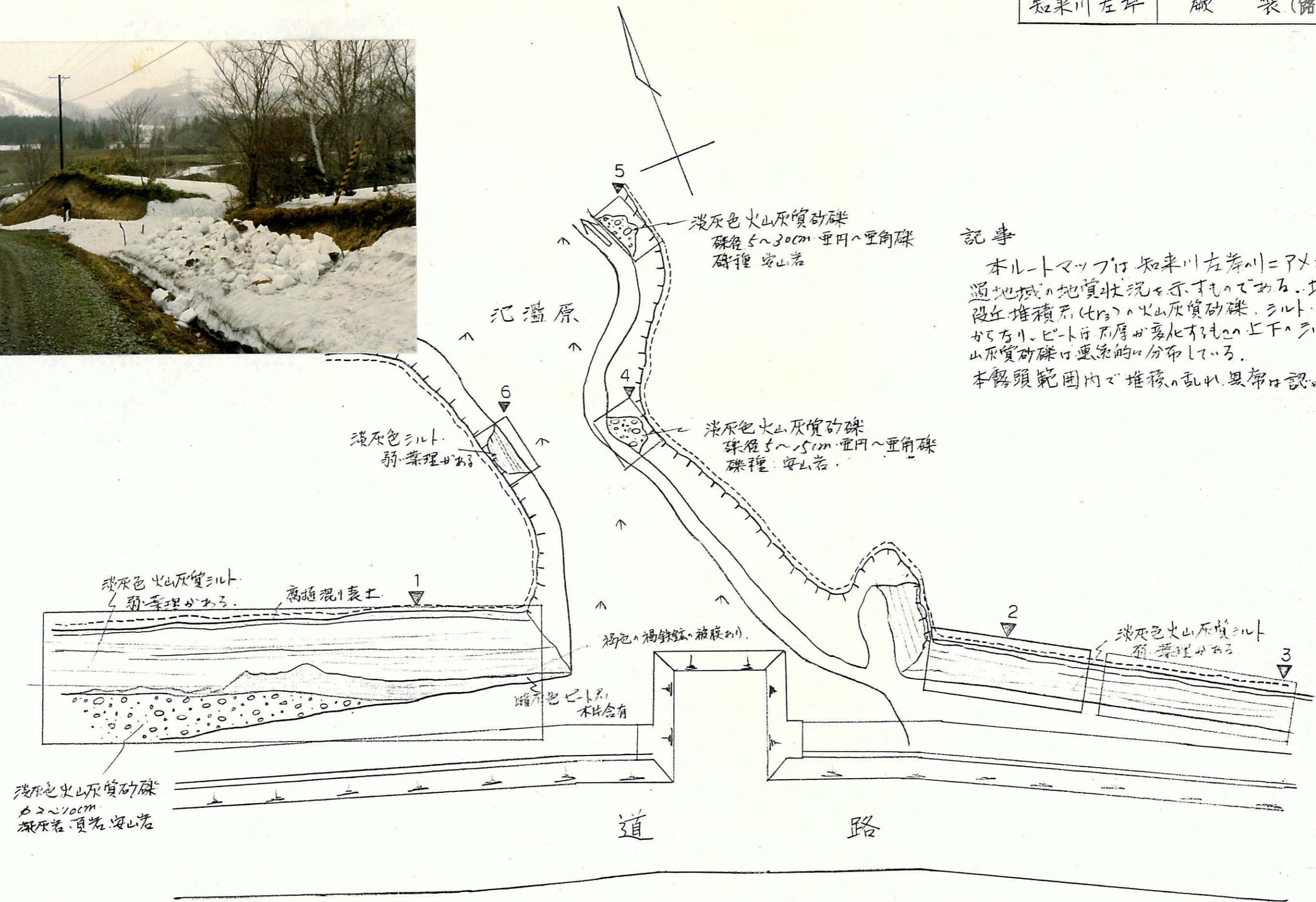
瀨棚層は、層理や葉理が比較的明瞭な泥岩からなっている。層理面は、 $N10^{\circ}W \cdot 17^{\circ}W$  の走向・傾斜を示す。写真左下部に見られるように、黒色の炭化木片を挟在している。写真右端の上部は段丘堆積物に由来する崩土(砂礫)が認められる。



上り坂 露頭全景 下り坂 知来川



露頭中部のやや上の方に位置するピート層を介して、段丘堆積物 (tr3) が礫込軽石層を覆っている。



記事  
 本ルートマップは知来川左岸川=Aメニ通  
 道地域の地質状況を示すものである。地質は  
 段丘堆積系(ter)の火山質砂礫、シルト・ピト  
 からなり、ピトは厚さが変化するものの上下のシルト・火  
 山質砂礫は連続的に分布している。  
 本密頭範囲内で堆積の乱れ異常は認められる。



露頭近影  
 (写真撮影位置は前頁の図中の▼で示す.)

1



2



3



4

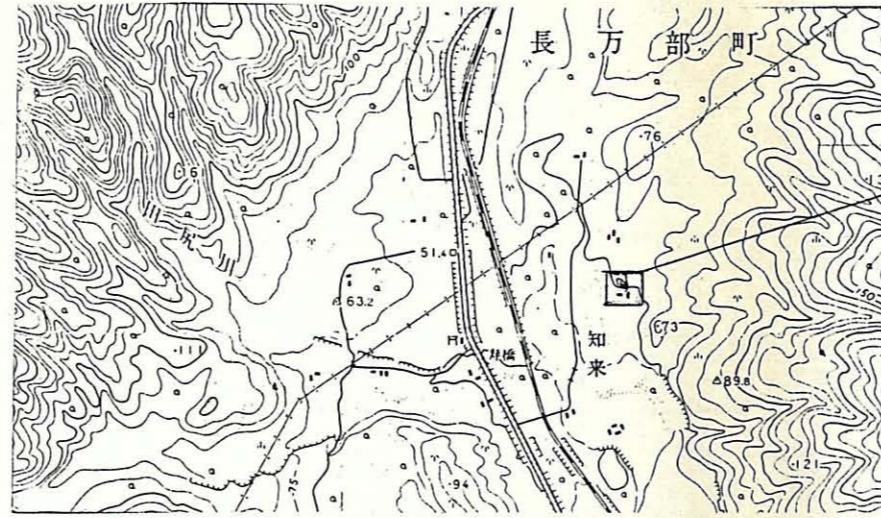


5

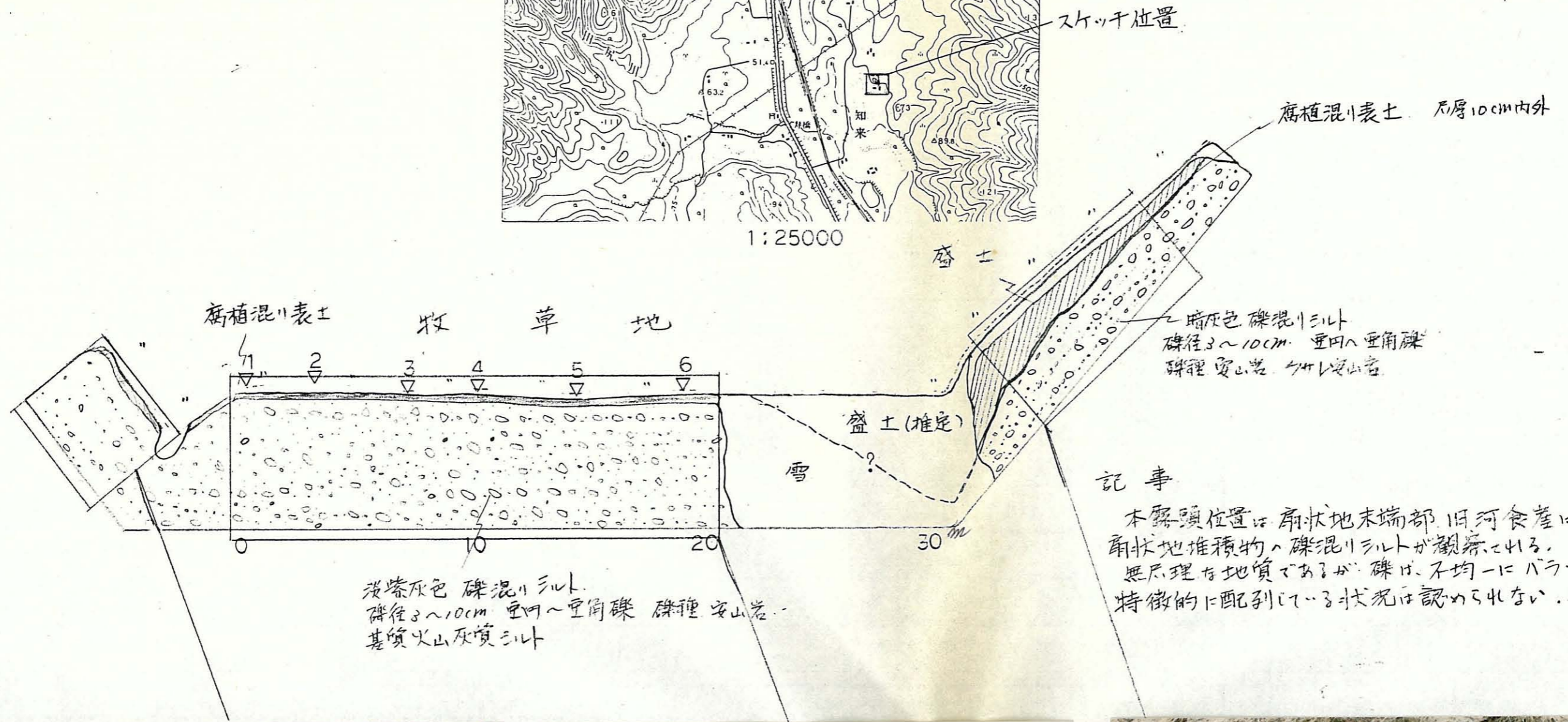


6

扇状地堆積物の堆積状況



1:25000



記事

本露頭位置は扇状地末端部旧河食差に位置し、扇状地堆積物の礫混りシルトが観察される。無条理な地質であるが、礫は不均一にバラツキしており、特徴的に配列している状況は認められない。

淡塔灰色 礫混りシルト  
礫径3~10cm 重円~重角礫 礫種 安山岩  
基質火山灰質シルト



露頭近景 (前頁の図中の□で示す地点に対応する)  
地質は、礫混りシルトである。 礫径3~10cm. 重円~重角礫が有り安山岩、フサリ安山岩礫が有る。

知来川左岸

知来牧舎裏



1



2



3



4

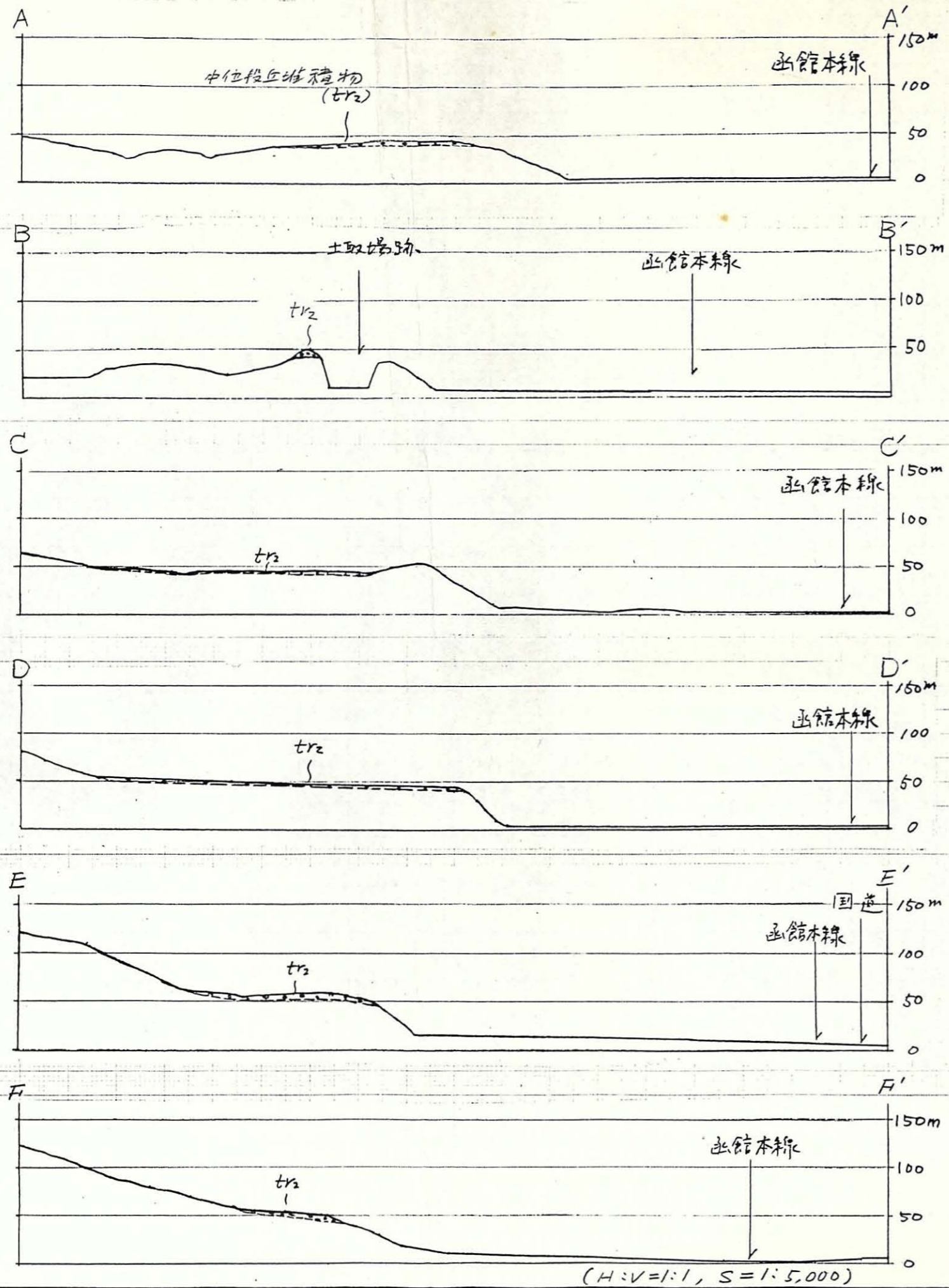


5



6

長万部南方の中位段丘 (tr<sub>2</sub>) の分布・地形断面図



(H:V=1:1, S=1:5,000)

